

令和6年度 第1回南空知定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録（要旨）

● 日時、出席者等

日時	令和6年7月18日（木）14時00分～15時10分
会場	岩見沢市役所4階 委員会室
出席委員等	委員14名、圏域市町企画担当部課長9名
報道	2社
事務局等	事務局4名

● 議事録（要旨）

会 議 次 第	協 議 内 容
委嘱状交付	
1 開会	
2 市長挨拶	
3 委員・事務局紹介	
4 座長互選	要綱に基づき座長・副座長選出。
5 報告事項 『南空知圏域における定住自立圏の形成について』	事務局より説明。意見・質問等無し。
6 協議事項 『定住自立圏共生ビジョンの方向性について』	◆定住自立圏及び市町村の名称 名称：南空知定住自立圏とすることを想定 中心市：岩見沢市 構成市町：夕張市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町 ◆定住自立圏共生ビジョンの期間 計画期間：令和7年度～令和11年度（5年間） ◆将来像についての意見 （委員） 新世代のチャレンジとしては、「子育て世代を呼び込む」施策の展開だけではなく、『結婚したくなる』『子どもを産み育てたくなる』

7 その他 8 閉会	という要素も大事であり、若い人だけではなく高齢者も含めて 3 世代・4 世代で住みたくなる圏域を目指すといった方向性にすべきと考える。 (委員) 教育分野では「部活動の地域移行」が課題の一つとなっていることから、計画期間の中では、この点についても協議が必要と考える。 (委員) 『厳しい環境下でも開拓精神を忘れずチャレンジする』という表現が具体的な取組みをイメージしづらい。新しいことにも取組んでいくことが分かる表現にすべきと考える。 ◆具体的な連携分野についての意見 (委員) 岩見沢市が参画することでやりづらくなる取組みも考えられる。今回、協議の場があらたに用意されるので、連携だけではなく、お互いが切磋琢磨することも考えて話し合いを進めるべきと考える。 (委員) ICT は課題を解決するための手段についての分野であり、課題を抱える他の分野との連携が必要である。岩見沢市はインフラだけ提供し、具体的な連携は岩見沢市抜きでという可能性も想定されることから、各市町が役割分担をした中で協力できる体制をつくっていくべきと考える。 (委員) 公共交通もバスの乗務員不足という課題があり、移住分野との連携が必要と考えている。 また、すでに 130 圏域の先行事例があるので、その中から、この圏域に合いそうな事例も紹介していただきたいと考える。 事務局より、次回開催予定日について説明。
--------------------------	--